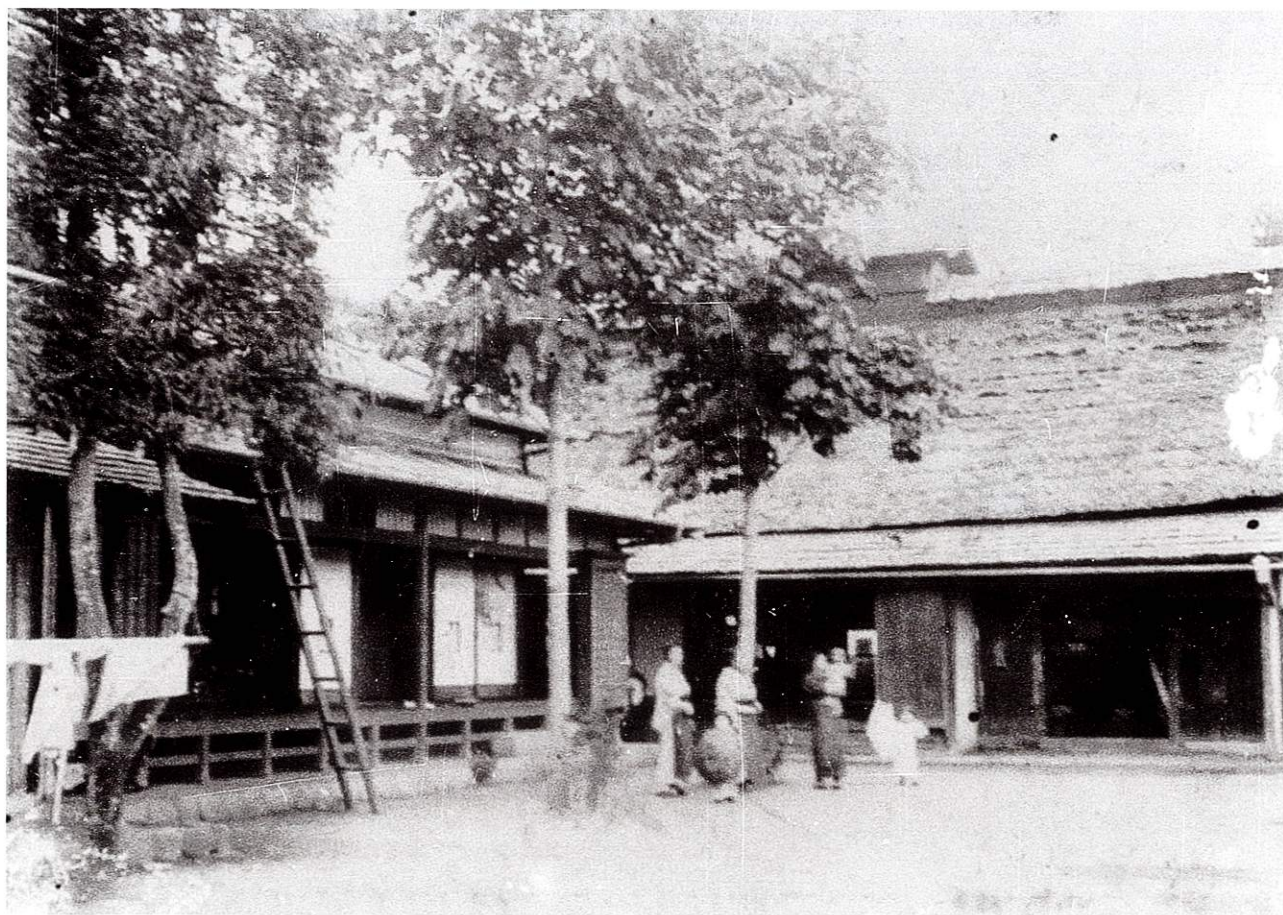


VIII 日々の暮らし

明治から昭和初期にかけての福生市域は畑作と養蚕が盛んな農村地帯で、一般的なすまいは農作業のために前庭があり蚕を飼いやすい間取りの茅葺きの家でした。当時は婚礼と葬式はふつうは家で行われ、婚礼の時には花嫁は黒地の着物に角隠し、葬式には身内の女の人白い着物に白い帯をしめました。オビトキ（男女の数え7つの祝い）には晴れ着を着て神社にお参りしました。江戸後期の記録にもみられる天王祭りは福生・熊川の夏祭りとして盛んに行われ、現在でも八雲神社の祭りと呼ばれて市民に親しまれています。



123 生糸商の家 福生 明治42年7月

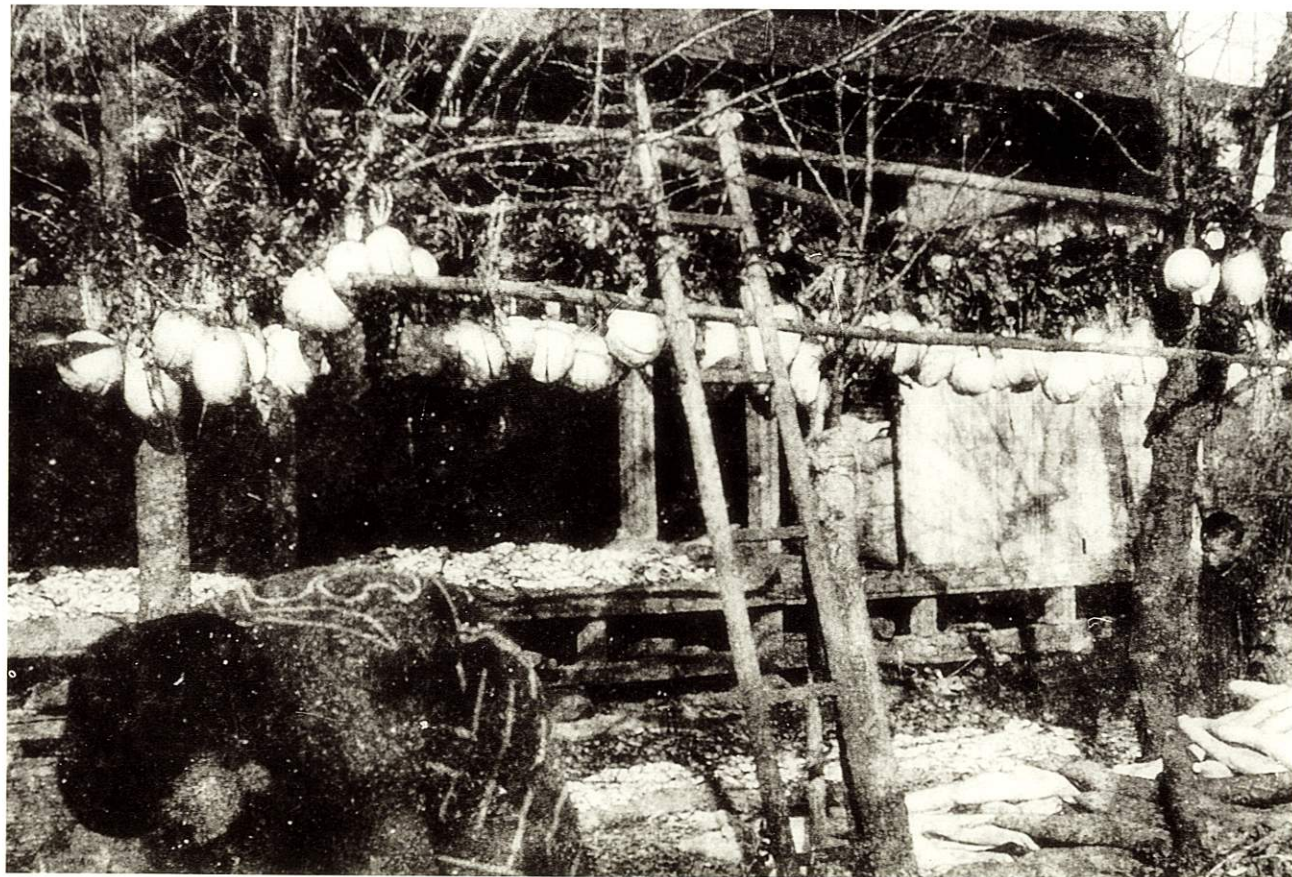
124 家族 福生 明治45年1月





125 大正期の熊川神社 熊川神社境内 大正1~3年頃

126 軒先に大根を干す 熊川 大正11年

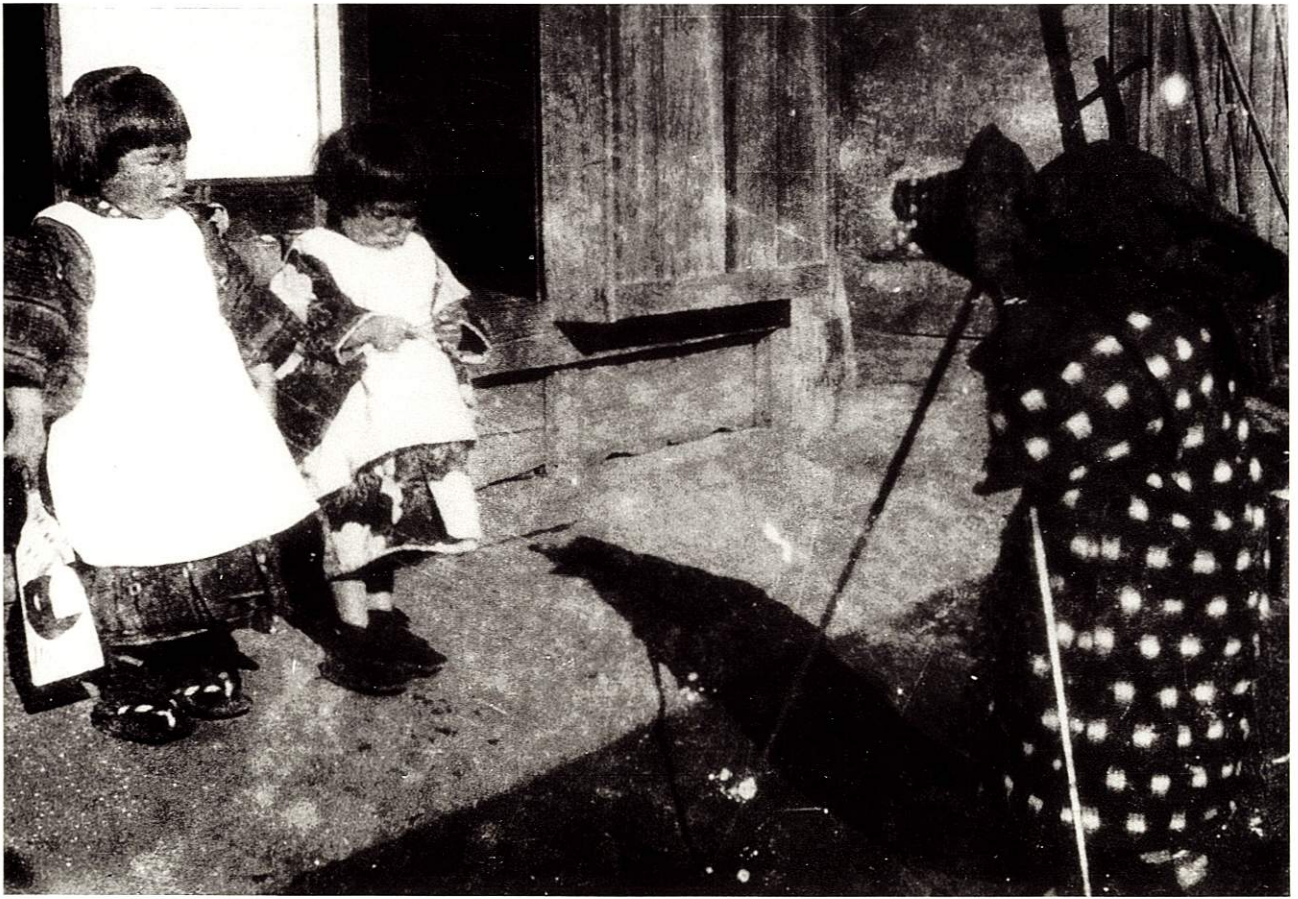




127 流行のマントを着て 熊川 大正13年

128 キャッチボール 熊川神社境内 大正13年





129 ハイ, ウツシマスヨ 熊川 大正14年

130 大正期の清岩院 福生(清岩院) 大正期





131 お手玉をする女の子 福生（中福生） 大正期

132 客人を招いての鮎漁 多摩川





133 花嫁と家族 熊川 昭和4年3月

134 麦カラ細工をもつ子ども 熊川 昭和6年6月





135 昭和初期の葬列 熊川 昭和9年4月

136 天王様の夏祭り 福生駅前 昭和初期





137 オビトキ（7歳の祝い）の子どもたち 熊川神社 第二次大戦中

138 終戦後の子どもたち 熊川 昭和21年





139 天王様の夏祭り 熊川（南・内出）昭和20年代前半

140 草屋根の葺き替え 熊川（牛浜）昭和61年4月

